

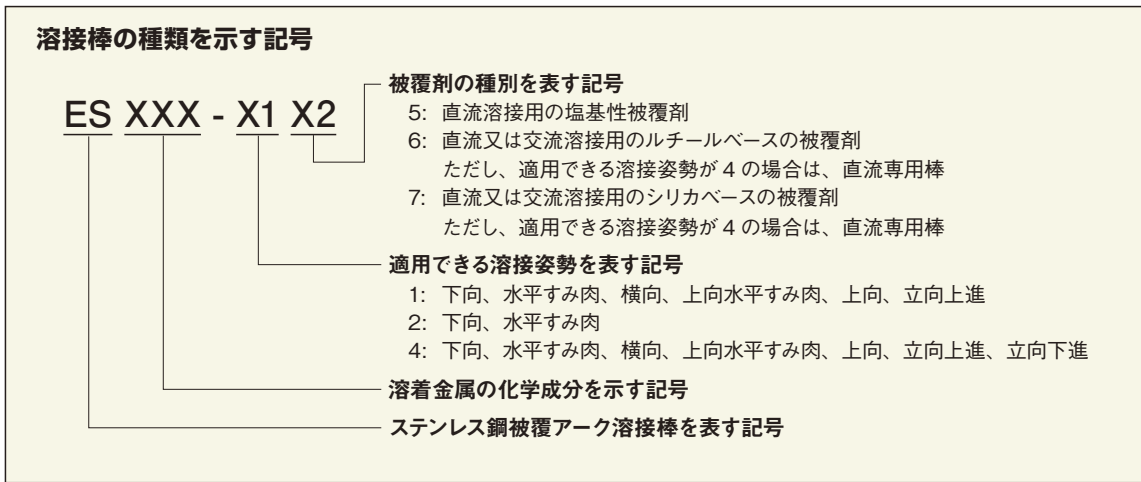
ステンレス鋼被覆アーク溶接棒の JIS 改正について

富津研究所 課長代理研究員 水本 学

市場の活性化、貿易の自由化を目的に、国内規格や技術標準の国際統合化が進められています。日本工業標準調査会 標準部会では、2001年に標準化戦略を策定し、ISO (the International Organization for Standardization)と JIS (Japanese Industrial Standard)の統合化を促進すること

なりました。溶接材料の JIS については、当社も委員として参画し、(社)日本溶接協会にて改正が推進されています。

今回、2008年3月に改正されたステンレス鋼被覆アーク溶接棒の JIS について、その変更の概要を紹介します。



■ JIS Z 3221 改正のポイント ■

区分	従来	改訂後
溶接棒の種類を示す記号	例: D309MoL	例: ES309LMo ・ D から ES へ変更 ・ Mo の位置が L の後ろへ変更
溶着金属	化学成分	不純物成分の分析規定なし Mo 及び Cu の分析が規定された
	引張性能	引張試験片: A1 号 引張試験片が A0 号に変わり(平行部径が細く変更)、伸びの規定が変更(5% 低く変更されたものが多い)された
	曲げ試験	縦表曲げ試験を実施 規定なし
	腐食試験	硫酸・硫酸銅腐食試験を実施 規定なし
すみ肉試験	規定なし	姿勢適用性の判定基準が規定された

■ 主要銘柄の被覆アーク溶接棒の種類を示す記号 ■

銘柄	従来	改訂後
☉-308L・R	D308L-16	ES308L-16
☉-309L・R	D309L-16	ES309L-16
☉-309ML・R	D309MoL-16	ES309LMo-16
☉-316L・R	D316L-16	ES316L-16